

九条はらまち

福島県南相馬市「はらまち九条の会」 No.219

2013(平成25)年 7月16日(火)発行



○「はらまち九条の会」は、憲法第9条(戦争の放棄)を護って、「戦争をしない国・日本」をめざす自由な市民の会です。もしも第9条が改悪されたら、戦前と同じ軍隊優先の国家になって、若者に「徴兵制」が施行されるようになるかもしれません。原発事故と同じ“まさか”が起こるのです。戦争でなく“外交”で問題を解決する時代です。戦争や軍備より、“天災”に備える時です。

全国の「九条の会」から 励ましをいただいています

- ◇大震災からもう2年4ヶ月。被災地で事故原発に最も近い「はらまち九条の会」に、全国から注目が寄せられ、訪問をうけたり、様々な温かい激励をいただいています。決して孤立してはいません。
- ◇「はらまち九条の会」ホームページをご覧になっている方も全国で増え、ご意見も寄せられています。

◀6月2日、横浜・若葉台九条の会の南相馬市訪問▶



▲原町区錦町「はらまち九条の会」看板前で、交流会後の記念撮影。訪問者は事前学習として、若松丈太郎さんの著作『福島核災棄民』を読まれているので、若松さん(前列左端)にも来ていただきました。左端が右文を寄せられた増田さん。

<フクシマ見学記> 横浜の私たちに何ができるのか 横浜市旭区「若葉台九条の会」

世話人 増田利平

若葉台「九条の会」の活動の一環としてフクシマを訪れ、自分たちの目で被災地の状況を確認しようという事で計画を立てました。「はらまち九条の会」のホームページで、山崎事務局長と出会えたことで、計画から実施まで順調に進めることが出来ました。

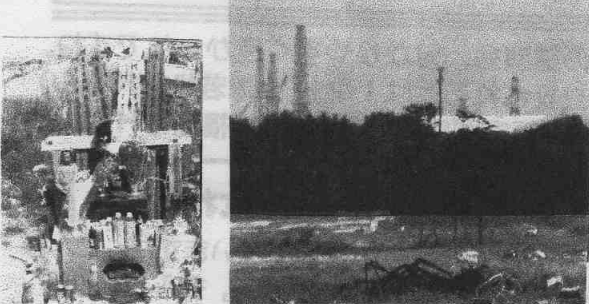
総勢18人、バスをチャーターして6月2日～3日の一泊二泊で現地を訪れ、「はらまち九条の会」との交流で平田会長からのお話をお聞きし、若松丈太郎先生ともお会いすることが出来ました。そのあと、南相馬市などの被災地の見学、(翌日は)仮設住宅の方々との懇談など、盛り沢山な2日間でした。

テレビ、新聞の報道で知っていたつもりの認識が吹っ飛びました。放射能汚染のための無人の家屋は、不気味でさえありました。持参した線量計の数値に息をのみました。各所に避難されている被災者の方々の「我が家に戻りたい」という言葉は、切実でした。

帰りのバスの中で参加者から、次々に熱い感想が述べられました。帰ってから感想文を募集して取りまとめました。しかし参加者の受け止めたものはそれにとどまらず、もう一度集まって報告・交流会を開くことになり、会の結果は後日ご報告したいと思います。

あの災害のその後の中で、「はらまち九条の会」や「NPO 野馬土」(相馬市)の活動は、希望の灯です。ますますのご活躍を期待しております。しかしながら一番重い課題は、横浜の私たちに何ができるかという事と、受け止めています。皆様方のご健勝を祈念いたします。

(2013.7.7 記)



▲浪江町請戸では、南5号の事故の福島第一原発を遠望。打ち上げられたままの漁船や住宅跡の廃墟に声もなく、慰霊碑に皆さんで手を合わせました。

<被災地を訪問しての感想> ■「飯舘村からドンドン放射線量が上がり、また海岸線の被災の状況に声も出なかった」 ■「収束宣言と現実のギャップを見せつけられた」 ■「私は南相馬市訪問は2度目でした。原発はいらない。また山崎さんの教え子の被災者(浪江町津島)の方たちの悲痛な叫びをたくさん聞きました」 ■「どう生きていく、とつきつけられました」 ■「仮設住宅のひどさ、人として扱われていないと思いました」 ■「被災した浪江町の酪農家が家族同様の牛40頭を殺処分したり、仕事の無い辛さ、苦しさ、悔しさに胸がつまりました」

◇「若葉台九条の会」の皆様は、南相馬市のゼロ歳から18歳までの「大震災による遺児等への支援金」として、カンパ37,000円を南相馬市長あてに振込送金されています。

